

日本分析化学専門学校 議事録

令和6年度 学校関係者評価委員会

1 - 7 頁

日 時	令和6年6月28日（金） 15：00～16：50 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]														
出席者	欠	出	欠	出	出	出	出	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田喜 一郎	高野 裕恵	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
1	議題		1. 開会 2. 委員紹介 【資料①】 3. 挨拶 【資料②】 4. 委員会の位置づけと目的 【資料④、⑤】 5. 本校の自己評価の報告 【資料③、⑥】 6. 自己評価についての意見 7. その他 8. 閉会												
2	開会		事務局より開会の挨拶がなされ、令和6年度 本校 学校関係者 評価委員会が開会した。												
3	委員紹介		事務局より、本委員会の委員の紹介がなされた。 →資料① 令和6年度「学校関係者評価委員会」委員リスト ・梅川雅章 委員（分野団体・大阪府職業能力開発協会 技能検定第一課長） ・内田 敬 委員（就職先企業・交洋ファインケミカル株式会社 総務部次長） ・大原一浩 委員（高等学校・大阪府立成美高等学校 教諭） ・西澤里美 委員（保護者） ・長田芽生 委員（卒業生・東洋サクセス株式会社） ・石田喜一郎 委員（校長指名・大研科学産業株式会社 営業部副部長）												
4	挨拶		高野校長より、委員会開催に挨拶があり、事務局からは学校の現 状報告があった。 →資料② 本校の概要と近況のご報告 （1）本校の概要と近況報告 ①学校行事について ・学校行事 昨年度は、7月に分化祭、9月にスポーツ大会、2月には国内研 修旅行を実施した。国内研修旅行は、数年ぶりに九州方面で実施し たが、昨今の物価高騰により学生より徴収している旅費積立金では フェリーを利用するしかなかった。新日本製鐵(株)様やシャボン玉石 けん(株)様などを見学し、学生にとって充実したものとなった。 ＜次頁に続く＞												

日 時		令和6年7月12日（金） 15：00～16：50 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]													
出席者	欠	出	欠	出	出	出	出	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	高野 裕恵	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過											担当	期限
4	挨拶 （前頁の続き）		・就職関連行事 学生が企業様へ出向き見学をする「企業見学会」を年間3回実施した。見学先として、(株)ピカソ美化学研究所様、(株)タツタ環境様、ニプロファーマ(株)様などにご協力をいただいた。 分析実務に従事している方を講師としてお招きし、職業教育講座として「化学実務駅伝」を年間3回実施した。本委員会の在校生保護者代表である西澤様のご子息にもご講演いただいた。 卒業生就職先企業より採用担当者を講師としてお招きし、企業が求める人物像や、就職後に現場にて必要となる技術などを紹介いただく「企業紹介講座」を行った。 就職関連行事すべてにおいて、分析の現場を知るよい学びとなった。 ・卒業研究 本校で化学を学び、専門的な知識と技術を修得し、2年間の集大成「卒業研究」に取り組んだ。昨年度は、企業様とのコラボレーションが顕著であった。その中の一つで企業様と協力し、マスカラの開発研究を行った。間もなく新商品として販売されるところまでできている。卒業研究において、企業様との制作経験が就職活動において役に立ち、研究開発職として就職内定をいただく要因にもなった学生もあり、改めて外部との連携が大切であると感じた。 ②本校の学科とカリキュラム ・農水産バイオ分析学科 来年の4月より学科名が変更される。 ・先端薬事分析学科 募集停止となった。 ・先端化学分析学科 3年制の通信制学科であり、今年の4月に開設された。今年の1月から募集を行い、4月より10名の学生でスタートを切った。7月よりスクーリングを実施する予定である。学び直しなどニーズは様々だが、卒業を目的としない一部の単位を修得する学習も可能という特徴がある。 ③2023年のふりかえり ・募集状況 過去3年を振り返っても学生数は減少しており、大変厳しい状況である。定員数に対しての入学生数で定員充足率が決まるが、充足率は学校の評価にもつながるものである。先端薬事分析学科の募集を停止した理由もこれに起因している。												
＜次頁に続く＞															

日 時		令和6年7月12日（金） 15：00～16：50 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]														
出席者		欠	出	欠	出	出	出	出	出	出				進行	議事録	記録
		梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	高野 裕恵	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目			審 議 経 過											担当	期限
4	挨拶 （前ページの続き）			・ 入学者について 今春に高等学校を卒業したのが全体の約3分の2であった。そのうち、大阪出身者が約半数で、関西在住者が6割を占めている。 ・ 在校生について 男女比においては、数年前まで男性が6割・7割であったが、近年は半々となっている。学科によって偏りはあり、今年の入学生でみると環境分析学科は全員が男性である。 ・ 到達目標の結果 令和5年度の卒業生進路決定率は、95.3％であった。進路決定者のうち5名が大学編入学を行ったが、それ以外の進路決定者は、全員が関連分野に就職をした。 資格においては、国家資格「化学分析技能士3級」取得率6割程度であり、危険物取扱者甲種・乙4は、昨年と比べ取得率が上がった。毒物劇物取扱責任者、化粧品製造業責任技術者、化粧品総括製造販売責任者は、本校カリキュラムにより卒業と同時に全員取得できる。それ以外には、国家資格の特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者の講習を受講した。 ・ 中途退学者 令和5年度は、約6％であった。退学者数は、昨年と大きく変わらないが、学生数の減少した分だけパーセンテージが上がった。 ・ 文部科学大臣認定の教育内容証明書 新設された学科を除き、すべての学科が国より「職業実践専門課程」に認定されている。認定の条件は複数あるが、本会議もその一つになる。 ・ 卒業生の就職先 様々な業界から求人票をいただき、改めて分析の世界は広いと実感している。 ・ 大学3年生編入学実績 令和5年度は、5名の学生が大学編入学をした。編入先としては、富山大学、島根大学などが挙げられる。6月に開催したOB会では、編入学経験者も参加しており、本校で修得した分析技術を活かして仕事をしているという報告を受けた。												
＜次頁に続く＞																

日 時		令和6年7月12日（金） 15：00～16：50 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]													
出席者	欠	出	欠	出	出	出	出	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	高野 裕恵	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
5	委員会の位置づけと目的		事務局より、本委員会の位置づけと目的に関して、以下の説明があった。 →資料④職業実践専門課程制度と本校学科との関係 ⑤「職業実践専門課程」の文部科学大臣認定について 平成23年にキャリア教育職業教育の在り方ということで文部科学省より方針が出たものである。専修学校の質の保証を・向上を目指すもので、職業教育を行えているかということを審査し、認定される。要件として修業年限2年以上、企業等と連携を取り教育課程委員会を年2回開催、企業等と連携して実験・実習を行う、企業等と連携し教員に対し実務に関する研修を組織的に実施し、学校関係者委員会を年1回開催し情報公開を行うことなどがある。公開されている一覧によると令和4年の学校数は66校、学科数は87校である。専門学校の数が2721校であるので40％程度であり、学科数は7288学科が認定されている。本校が属する工業課程では、全体の50％ほどになる。都道府県で見ると東京都が学校数・学科数ともに一番多く、次に多いのが大阪府である。本校は、医療医薬分析学科、健康化学分析学科、生命化学分析学科、環境化学分析学科、化学分析学科の5学科が認定されており、認定学科は国の修学支援新制度、専門実践教育訓練給付金の対象となるため、本校の学生も複数名が利用している。												
6	本校の自己評価の報告		事務局より、自己評価 学校関係者評価規程の説明を実施した。 →資料③ 令和5年度自己評価報告書 ⑥ 令和5年度学校関係者評価委員会議事録 内田委員長より指名を受け、事務局より専門学校の評価は外部のアンケート等も参考に教職員による評価（自己評価）をPDCAサイクルに基づき実施し、学校自らが選任した学校関係者（業界団体・企業・高等学校・保護者など）による委員会が自己評価の結果について評価を行う（学校関係者評価）ものであること。また、学校関係者は教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営の改善のための助言等を行い、この評価結果をとりまとめ公表するとともに一定レベルを担保していくものであることを説明した。 また、このような主旨を理解の上、本委員会では教職員による自己評価について、厳しい視点で忌憚のない意見を求めたいということ。 ＜次頁に続く＞												

日 時		令和6年7月12日（金） 15：00～16：50 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]													
出席者	欠	出	欠	出	出	出	出	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	高野 裕恵	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
6	本校の自己評価の報告（前頁の続き）		この評価項目は文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき策定しているという前提を説明した上で、令和5年度自己評価結果報告書の各項目について、事務局から昨年度との変化を中心に詳細な説明を行った。 （1）令和5年度の重点目標 1. 本校の建学の精神及び教育理念（三実一体教育）の学外への発信と、これらに基づく教育目標の達成 2. 授業や管理面におけるICT化への対応 3. 新型コロナウイルス等感染症予防対策の継続と適切な学校運営 （2）向上したもの ①情報システム化等による業務の効率化を図っているか。 ②実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施できているか。 ③関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）を実施できているか。 ④関連分野における先端的な知識・技能等を修得させるための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みを行っているか。 ⑤職員の能力開発のための研修等が行われているか。 ⑥学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか。 ⑦施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備しているか。 （3）低下したもの ①学校運営方針は明確に定め、教職員に明示し伝わっているか。 また、それを基にした各種諸規程が整備されているか。												
7	自己評価についての意見		各委員から以下のような意見があった。 また、評価内容や点数については適当との評価を得て、令和5年度の自己評価については、適切な実施の上での結果であるとの結論となった。 ①評価項目3－4 実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施できているか 【意見】最近、大阪公立大学で薬品に関する事件があった。日本分析化学専門学校における薬品の管理はどうなっているのか。 【回答】本校では、学生が薬品庫に立ち入ることを禁止している。必要な薬品がある際は、教員に申し出て受け取るようにしている。使用前には、容器込みの重さを量り、使用後にも重さを量るような管理システムをとっている。 ＜次頁に続く＞												

日 時	令和6年7月12日（金） 15：00～16：50 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]														
出席者	欠	出	欠	出	出	出	出	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	高野 裕恵	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
7	自己評価についての 意見（前頁の続き）		②評価項目3－7 教育内容について、外部関係者の評価を取り入れているか 【意見】今年、分化祭に参加したが飲食類が無かったことが残念であったので、来年は食事の提供をしてほしい。実験ブースにおいても早くに終了しているものがあったので改善した方が良いと思う。 【回答】学校としても開催前によく検討を行い、飲食類がない分化祭を実施した。理由として、保健所の規定が厳しくなり調理実習室を持つことが食品を作る条件となり、本校においては購入品の提供のみになる可能性など制限が出ることになった。制限のある中で一部だけ飲食類を提供するより、本校の特徴を活かし、来場する子どもたちに実験を楽しんでもらえるような実験屋台を開催する運びとなった。次年度は、実験として食品を扱うなどの方法を検討したい。 実験の準備数は十分にとるよう学生に指導していたが、来場者の総数が218名ということもあり、人気のある種類は早めに終了せざるを得なかった。次年度は、実験開催時間の設定や定員を設けるなど工夫をするようにしたい。 ③自己評価項目4－2 資格取得率の（全学生を分母とした）向上が図られているか 【意見】ハローワークで就職先を紹介してもらう相談をした際に「乙4は持っていますか」「危険物は持っていますか」と質問されたことがある。学生の資格取得についてはどうなっているか。 【回答】学校としては資格取得を推奨している。昨今の物価上昇で資格試験の受験料捻出が難しくなっているようで、学生から相談を受けることもある。高等教育の修学支援新制度を利用している学生のため、資格の申込期間を調整するなどの配慮を行っている。特に国家資格である「化学分析技能士」の3級は、全員受験・全員取得をめざして指導をしている。 ④評価項目5－2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 【意見】18歳で成人となるが、親からみるとまだまだ子どもだと感じる。授業の中で判子やクレジットカードの使用など、お金に関することも教えてもらいたい。 【回答】毎年、「消費者生活センター講話」という行事を行っており、全国消費生活相談員協会様にご協力をいただき、日常生活を送る中で悪意のある情報に騙されないようにするために注意すべき事項をお話しいただいており、今年は後期に開催を予定している。 また、18歳でクレジットカードを作れ、インターネットでの買い物が自由にできるようになったということを受け、銀行職員の方より注意喚起を含めた話をしていただいた。 ＜次ページに続く＞												

日 時	令和6年7月12日（金） 15：00～16：50 [会場：日本分析化学専門学校 3階研修室]														
出席者	欠	出	欠	出	出	出	出	出	出				進行	議事録	記録
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	西澤 里美	長田 芽生	石田 喜一郎	高野 裕恵	尾崎 信源	宮道 隆				宮道 隆	溝田 美和	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
7	自己評価についての 意見（前頁の続き）		⑤自己評価項目5－4 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 【意見】メンタルヘルスは、学生にとっても大切だと思う。近年、医学の進歩や診断技術の向上があり、発達障害という言葉も身近なものになってきたが、まだまだ偏見がある。そういった学生をフォローすることが、全学生へ良い影響を与えるのではないかと。学生に対する周りの理解と、自己肯定感を持たせ、高めることが大切だと思う。会社にも発達障害の人がいる。 【回答】クラス担任は、毎朝出欠を取る際に学生の様子を見ている。学生の声や雰囲気が変わったことがないかと注視し、普段と違うと感じた際は積極的に声掛けを行い、フォローする体制をとっている。 ⑥自己評価項目5－8 卒業生への支援体制はあるか 【意見】学校を卒業してからも再就職の支援があるのは良いと思う。 【回答】退職・転職の相談や再就職の斡旋を随時行っている。例年、10名ほどの卒業生が制度を利用しており、企業様からは豊富な求人がいただけている。 ⑦自己評価項目7－2 学生募集活動は、適正に行なっているか 【意見】子どもを本校へ入学をさせる際に、他校を含め複数校を見学した。担任制をとっていることが強みになると思う。 【回答】入学を検討する方に本校への強みとして紹介していく。 ⑧自己評価項目10－2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 【意見】学生の頃を振り返ると、課外活動を経験していたことが社会に出てから役に立った。課外活動は学生にとって社会性がついて良いと思う。社会に出てからは、技術はもちろんだが周りとのかわりが必要になるので、積極的に課外活動に参加するように推奨してほしい。 【回答】最近は、外部の実験会などの依頼が増えており、積極的に学生とともに参画をしている。昨年は、生野区の持続可能なまちづくりの活動支援事業である「理科実験ショー」に高野校長が中心となり参加した。今年は咲くやこの花館から実験ショーの依頼があり、7月に2日間のパネル展示と実験ワークショップを担当させていただくことになった。外部とのつながりは年々増えており、ありがたいと思っている。学生にとっても学内だけでなく、外部との繋がりやコミュニケーションをとることが良い経験になると思っている。												
8	閉会		事務局より閉会を宣言し終了した。												
以上															